

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578000188		
法人名	特定非営利活動法人 裕心会		
事業所名	認知症高齢者グループホームわかば苑		
所在地	山口県長門市三隅上5109-1		
自己評価作成日	平成24年5月17日	評価結果市町受理日	平成24年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年6月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから野鳥や道行く人々の姿を眺めたり、敷地内に栽培している野菜や果物などをいつでも自由に触れることができ、職員は子供同伴で勤務できるように配慮されているため、利用者様と子供たちが触れ合うことが出来る開放的な空間であり、家庭的な穏やかな雰囲気の中で日々過ごしていただいている。年に3回ほど、地域のご住職による「福祉法話」や協力医による「毎月の往診」も、利用者様はもちろんご家族の「安心」や「心のやすらぎ」に繋がっている。また、昨年より「グリーンカーテン」に取り組み、各部屋外部に「ゴーヤや朝鮮あさがお」を栽培し、水やり等を利用者様と一緒にしながら、植物の成長を見守る中で、育てる喜びと自然環境による心地良さも感じていただいている。

職員は、常に利用者を人生の先輩として敬い笑顔で接することを心がけ、理念の実践に取り組まれており、利用者は穏やかで明るい表情で過ごされています。食事は三食とも事業所で調理をされ、差し入れや自家菜園で採れた野菜をふんだんに使い、管理栄養士による献立で、栄養バランスのとれた食事が提供されています。利用者は、調理の下ごしらえやお茶入れ、台拭き、配膳、下膳、片付けなどを職員と会話しながら一緒にしておられ、誕生日や行事食、おやつ作り(パン、ちまき、たこ焼き、お餅等)など、工夫して食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を苑是とし、「地域とのふれあいを大切にし、利用者様と職員がいつも笑顔いっぱいの暖か施設づくりを目指します」を理念とし、利用者様への尊敬と優しさを優先し職員間の信頼関係を基に接している。	全職員で話し合い、新たに地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、ホールに掲示している。職員は、常に利用者を、人生の先輩として敬い、笑顔で接することを心がけ、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はしていないが、地域の催しには参加し、交流を深めている。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。利用者は、地元の花火大会、湯免温泉まつり、清風園ふれあいまつり、運動会などの行事に参加するなど地域の人と交流する他、年2回ふれあいいきいきサロンの人達とも交流している。大正琴や学生のバンドグループ、市内のお寺からの法話等の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設としては取り組んでいないが、職員個々では、それぞれ地域に持ち帰り、認知等の問い合わせには答えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点や指摘事項については、会議等で話し合い改善できるよう努力している。	自己評価は、管理者と常勤職員で検討し、内容をまとめ、職員会議等で説明している。前回の評価結果を活かして、地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を作成するなど、改善に取り組んでいる。全職員で自己評価に取り組んでいない。	・職員全員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆さんにホームの意義目的の理解を求めながら、率直な意見を聞き、それを元にサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の近況や行事報告、他施設の事例報告、外部評価結果の取組状況等について報告し、意見交換している。水害等の対策、緑のカーテンやガードレールの修繕など、サービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には出席される。問題発生時には報告しアドバイスも頂きたいが、地域密着型施設としての市の関わり様が現場施設としては明確でないと感じている。もっと積極的に現場を知っていただき、協力関係を築きたい。	運営推進会議の他、市担当課に直接出向いて、事業所の課題等を相談し、情報を得るなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。日中は玄関は施錠せず、外出傾向のある利用者には一緒に外出したり、遠くから見守るなど工夫してケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場に立って対応しており、虐待はしていない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者の受入が実現化した場合には対応する心積りはある。全職員が制度自体を理解しているとは言えない。研修等の積極的な参加を心掛けたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分説明をし理解していただいているが、入居後も疑問点があれば、理解していただけるよう対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第3者相談窓口も設け、重要事項説明書や苑内にも掲示し受け入れ態勢は整っている。	家族の訪問時や電話、運営推進会議出席時に、意見や要望などを聞く他、受診の同行時や6ヶ月毎のケアプラン更新時に直接意見を聞いたり、意見用紙に記入してもらい、出た意見を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、解決責任者、外部機関は明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議等で意見交換し、改善に努めている。	月1回の職員会議やケース会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、処遇改善や業務改善、福利厚生等、職員が意見を言いやすい雰囲気作りをして、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本は市内各事業所(市役所・JA・企業等)の給与水準、職場条件等を参考にし実施しているが、職員の都合(条件等々)を聞き、可能な範囲で環境を整え、働く意欲を持てる職場を目指している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修テーマに基づき可能な限り参加するようにしている。当然参加費は事業所負担としており、希望があれば自己研修についても推進し、出来る範囲のサポートは事業所で行う。	外部研修は職員の経験や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。内部研修は、日々の実践の中で技術や知識が身につくように、働きながら学べるよう支援している。	・計画的な研修の機会の提供
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のGH連絡協議会には加入し、可能な限り研修には参加しているが、市内GHの相互訪問等の活動は現時点では実現していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り、面談を十分に行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にケアマネから連絡を取っており、面談内容を双方が理解できるように行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望を聞き、全職員が話し合いによる共通認識を持ち、サービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、会話を多く持つよう心がけ、信頼関係を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活で本人に何らかの変化が起きた時、気付いた時には、職員間で話し合い、家族への連絡も密にし、本人にとって良い対応が出来るよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、ご家族にも協力していただき、可能な範囲で実現できるようにしている。	知人の訪問があり、手紙やはがき、年賀状の交換、近所の人からの電話などの支援をしている。名所、旧跡へのドライブや、家族の協力を得ての盆や正月の一時帰宅、温泉、外食に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しているが、利用者のレベルや性格の違いにより調和が難しいが、問題が無ければ見守っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後は積極的な交流はしていないが、依頼があれば内容によっては相談に応じる体制はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を積極的に聞き取り(センター方式)全職員で検討している。ケアマネより(書面同封にて)半年毎に家族の要望も聞いている。	センター方式を活用し、家族からの情報や生活歴の把握に努め、気持ちシートに利用者の思いを記載する他、日常のケアの中での、本人の話した言葉などをケア記録に記録している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りで情報を把握し、日常で疑問が生じた場合は家族と連絡を取りながら、サービス内容に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を観察し、毎月の処遇会議等で情報交換を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見・要望を反映し、センター方式を用いて、会議で検討し、ケアマネが介護計画書を作成している。	管理者、計画作成担当者、担当職員を中心にサービス担当者会議を6ヶ月毎に行い、センター方式からの利用者情報、本人の希望、家族の要望、かかりつけ医からの意見を参考にし介護計画を作成している。毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録は、サービス計画を反映した内容や排泄・受診状況等がわかりやすいように記入方法を工夫している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々のニーズに従って、幅のある柔軟性のあるサービスを日々認識している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で協力を呼びかけている。非常時に備え、他施設や地域消防員にも協力していただけるようお願いしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医・かかりつけ医へ相談し受診を行っている。毎月の協力医の往診も利用者(家族)の安心に繋がっている。	利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の1ヶ月に1度の往診がある他、緊急時や休日診療の支援も行っている。他科受診についてはかかりつけ医の紹介状を持参して、家族または職員が受診に同伴し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での小さな変化や気づき等は准看護師を含めた全職員で報告し合い、健康管理には万全を期している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約書(家族の義務)にも記入し、入院時の情報提供はお願いしてるが、各々の家族事情や価値観の違いにより、家族の対応はまちまちである。また、体験上、病院からの情報提供(病状)は困難である。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けての対応は、その対応を協力医へ相談し、家族との話し合いを行っている。	重度化した場合に事業所が対応できることを契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合には、かかりつけ医や家族、関係者等で話し合い、方針を決めて職員全員で共有し、支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルは作成しているが、定期的な訓練は持続できていない。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、その場で対応策を話し合い、朝夕の申し送り時に共有する他、月1回の職員会議で検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、マニュアルがあり、心肺蘇生やAEDの使い方等の訓練を受けている職員もいる。定期的な訓練は実施していない。	・全職員による定期的な応急手当や初期対応の訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に実施している。地域の方4名に消防協力員もお願いしてる。	マニュアルがあり、水害や火災の夜間想定を含めた避難訓練や通報訓練を年2回実施し、避難場所の確認などを行っている。運営推進会議でも議題として取り上げ、避難訓練や緊急連絡網への加入があり、地域の消防協力員の協力も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がプライバシーの保護に努めている。	職員は常に利用者を人生の先輩として敬い、利用者の自尊心を傷つけないよう、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、利用者の能力に合わせて自己決定できるように促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々利用者の要望があれば声かけし、可能な範囲で希望に沿って支援するように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のライフスタイルに合ったものを提供できるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけしながら準備や片付け等していただいている。個々の好みも把握しており、誕生日には管理栄養士が嗜好に合わせた献立を立てている。	カロリーや栄養バランスのとれた献立で、差し入れや畑で取れた野菜を使い、三食とも事業所で調理をしている。調理の下ごしらえやお茶入れ、台拭き、配膳、下膳、片付けなど、利用者のできることを一緒に行っている。誕生日や行事食、おやつ作り(パン、ちまき、たこ焼き、お餅等)など、食事が楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を管理栄養士が作成し、それを基に職員が調理し提供している。個々の摂取量水分量はチェック表で把握している。管理栄養士により糖尿病食にも対応可。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行うよう声かけ見守りをしている。定期的に義歯消毒(ポリデンT)も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のチェック表を記入し、利用者の排泄パターンを知りトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を利用して利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導でトイレで排泄できるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックし排泄パターンを理解し、水分補給や運動を促しながら、個々の状況に応じて薬により調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の能力に合わせ見守り(支援)しながら隔日に入浴をしている。入浴の無い日にも着替えを行い、要望により夏場はシャワー浴も可。	入浴は、2日に1回で、希望すれば毎日でも入浴できる。本人の状態により、清拭、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない場合には、無理強いをせず、タイミングを見はらったり声かけに工夫するなど、入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のADL(能力)別に休息を促し、声かけもしながら室内温度調節等により環境を整えている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の一覧表や通院簿を作成しており、確認しながら行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1度の外出(ドライブ・外食)を実施したり、散歩・草取り・水やり・野菜切り・掃除等、出来る範囲で支援し、「お礼(感謝)の声かけ」を心掛けている。	習字や貼り絵、ぬり絵、箱折り、歌、洗濯物を干したりたたんだり、掃除、畑仕事(たまねぎ、サツマイモ、なす、トマト、ネギ等)や草取り、水遣りなど、利用者一人ひとりのしたいこと、好きなことをみつけ、活躍できる場面をつくり、日々の生活の張り合いとなるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々利用者の表情やお気持ちをくみ取り、可能な範囲で外出(買物・散歩)出来るように支援している。	四季の移り変わりを感じながらの散歩や、希望に応じての買い物、季節の花見(桜、紫陽花、もみじ等)、ドライブ(油谷、俵山、棚田、萩市内)、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりや本人所持はしていないが、個々の希望があれば買物(パジャマ・下着等)の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば利用でき、状況に応じて職員が代筆・代行し自由にやり取りが行えるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内外やホール内に季節の花々を生けたり、季節に応じた貼り絵やぬり絵を皆で作成掲示し、季節を感じていただけるようにしている。また、要望があれば自室の洗面台やお仏壇にもお花を提供している。	共用空間は広々として明るく、ゆったりとしており、窓からは四季の移り変わりを眺めることができ、季節の花を生けたり、季節に合わせた作品を飾り、季節感を感じることができる。台所からは、調理の音や匂いがして、生活感のある居場所となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや和室(談話室)にテレビを置き、自由に過ごせるようにしている。状況に応じて、皆が穏やかに過ごせるように、利用者間の調和を考慮した席替えを行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持って入居していただき、その都度利用者の希望に応じている。	使い慣れた寝具類やタンス、テレビ、衣装、小物類、仏壇等を持ち込んで、家族写真や本人の手作り作品を壁に飾り、その人らしさが感じられる居室となっている。窓辺にグリーンカーテンが植えてあり、各自が世話をし成長を楽しみにしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、自室ドアに大きく名前を書いて分かり易くしている。声かけを常に行い、出来る事はしていたけるよう見守っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 認知症高齢者グループホームわかば苑

作成日： 平成 24年 11月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14(9)	研修機会を増やし、研修内容の充実	全職員が研修に参加し、知識、情報を共有する。	研修(自施設研修も含む)の参加を促し、その機会を増やす。会議での復命研修を行い、記録を残す。	通年
2	35(15)	応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し、実践力を身につける。	全職員が知識と実践力を取得できるよう、訓練の実施と持続。	消防署の指導で訓練を定期的を実施する。最低年1回は行う。	通年
3	4(3)	職員全員で自己評価に取り組んでいない。	全職員で自己評価に取り組む。	全職員の意見を聞き自己評価表を作成し、会議で再度全職員に説明し検討する。	通年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。